

# 平成21年度猪名川町中学校学習到達度調査の結果について

猪名川町教育委員会学校教育課教育支援室

## ■調査目的

- 猪名川町内の中学校生徒の学習状況を調査し、領域・観点ごとにその実態を分析することにより、学習指導上の問題点及び学習指導の改善点を明らかにする。

## ■調査内容

- 調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて学力調査を実施した。

## ■調査対象

- 町内の公立中学校第2学年の生徒
- 調査対象教科は、国語・数学・英語

## ■調査日

- 平成21年5月8日（金）

## ■調査結果

### 【中学校の調査結果】

町内全体

		正答率（％）		
		期待正答率	全国平均	調査結果（町）
中学校第2学年	国語	74.0	70.8	75.5
	数学	65.0	63.3	74.9
	英語	73.0	72.4	81.3

## ■中学校第2学年

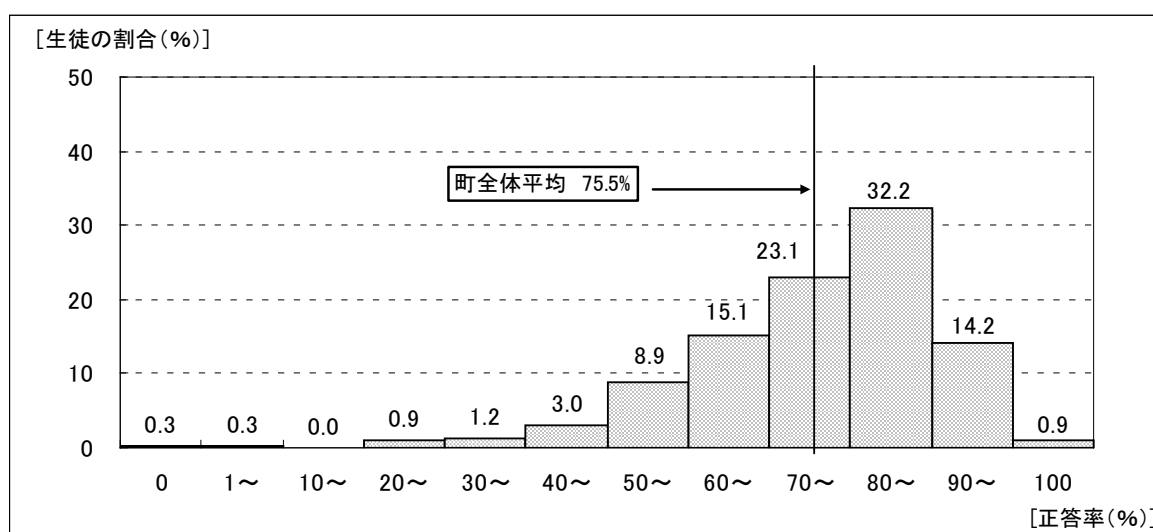
### 1 国語の正答率

期待正答率	町全体
74.0	75.5

○中2国語の町全体正答率は75.5%で、期待正答率を1.5ポイント上回っている。

#### 町内全体

正答率	0	1～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～	100
生徒の割合	0.3	0.3	0.0	0.9	1.2	3.0	8.9	15.1	23.1	32.2	14.2	0.9



○町全体では、正答率80%以上の生徒が47.3%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が5.7%存在する。

#### (1) 領域ごとの分析

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
期待正答率(%)	73.8	63.0	73.0	79.6
町全体正答率(%)	<b>84.7</b>	<b>83.7</b>	<b>70.7</b>	<b>73.0</b>
差(%)	10.9	20.7	△2.3	△6.6

##### ①話すこと・聞くこと

期待正答率73.8%に対して正答率は84.7%で、10.9ポイント上回った。

大問1の聞き取り問題では、すべての小問の正答率が期待正答率に達し、(2)を除く3問で期待正答率を10ポイント以上上回った。しかし(4)の記述問題においては、「ノートについて意見を書いているが、立場を書いていない」ために誤答となった生徒が11.2%と多かった。この問題のねらいは、聞き取った内容を踏まえて話題に参加することであり、そこをきちんと押さえる必要がある。

自分の意見を話す際には、まず自分の立場を明らかにし、相手に明確に理由を伝えることが大切である。国語の授業にとどまらず、様々な話し合いや発表の場面を通して、話し方の指導をしていきたい。

## ②書くこと

期待正答率63.0%に対して正答率は83.7%で、20.7ポイント上回った。

大問7の作文問題では、①3段落構成 ②第1段落に「共通点」③第2・第3段落に「違う点」④字数制限(141字～180字)を満たすことが条件であり、すべての項目において、正答率が期待正答率を15ポイント以上上回った。

課題作文では、まずその出題の意図を理解し、構想を練る。主題に沿った材料を自分の体験などから探し見つけ、書き出しておく。主題以外にも段落構成などの条件がある場合は、それも踏まえて文章の組み立てを考える。いざ書く際には、正しい原稿用紙の使い方を考慮しつつ、明確な言葉で誰にでも伝わるように書く。書き終えたら、見直して誤字や脱字をチェックするほか、読み手の視点に立ち、題意に沿った納得のいく文章になっているかどうかを確認する。以上の手順をしっかりと押さえ、指導に臨むことが望まれる。

## ③読むこと

期待正答率73.0%に対して正答率は70.7%で、2.3ポイント下回った。

大問2の説明文では、(2)(3)の正答率が期待正答率を大きく下回った。(3)は文脈の中での語句の意味をとらえる問題だが、「(そういう)事実は厳然とある」という言い回しに聞き慣れていれば、正答を選ぶことができただろう。ここでは、言語に対する感覚が試されたと言える。

読解問題では、文章の筋道をつかみ、どのようなテーマを中心に話が展開しているのかを理解することが大きなポイントとなる。特に説明文や論説文では、筆者の論理の進め方を正しくとらえ、文章と文章、段落と段落のつながり方を見誤らないように、流れを整理しながら読み進める力を身につけさせたい。

## ④言語事項

期待正答率79.6%に対して正答率は73.0%で、6.6ポイント下回った。

大問4と5の文法・語句に関する知識問題では、正答率が軒並み期待正答率を下回った。特に大問4(1)の「きらきらと」が修飾する文節を選択する問題では、正答率が41.7%と、すべての問題の中で最も低い結果となった。被修飾語として「星が」を選択した生徒が53.0%いたが、「きらきらと(連用修飾語)」は「星(体言)」を修飾しないことを押さえない。また、大問4(2)の文の中の単語の個数を答える問題でも、正答率は50.9%と低く、誤って文節に区切ってしまった生徒が25.1%に達した。同じ文を文節と単語で区切り、その違いを認識させることが必要である。

文法の指導にあたっては、「主語と述語の関係」「修飾語と被修飾語の関係」など、言葉がどのように結びついて文を作っているのかを、正しいルールに基づいて判断できる力を養っていきたい。

## (2) 観点ごとの分析

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
期待正答率(%)	63.3	73.8	63.3	73.0	79.1
町全体正答率(%)	80.9	84.7	80.7	70.7	74.4
差(%)	17.6	10.9	17.4	Δ2.3	Δ4.7

### ①国語への関心・意欲・態度

期待正答率63.3%に対して正答率は80.9%で、17.6ポイント上回った。

この観点に属する記述問題や作文問題では、すべての小問で70%を超える正答率となった。この観点の指導は、一定の成果を挙げていると言えるだろう。

さらに言葉で表現することに興味を持たせるためには、作文以外でも、日頃から生徒の発する言葉に対して、より効果的な、あるいは説得力のある表現の仕方を提案していきたい。

## ②話す・聞く能力

期待正答率73.8%に対して正答率は84.7%で、10.9ポイント上回った。

ただし、大問1(2)の発表のしかたの工夫を選ぶ問題では、7.7%の生徒が「理由をいくつか述べ、最後に自分の立場を述べている。」を選択している。しかし、実際は発表の初めにも自分の立場を述べており、どのような順序で意見を述べたのか、きちんと聞き取れていない。

聞き取り問題で、すべての内容を書き取ることは不可能だが、流れをメモすることはできる。今回のような長い内容を聞き取る際には、話題の中心となるキーワードを聞き逃さないように指導していきたい。

## ③書く能力

期待正答率63.3%に対して正答率は80.7%で、17.4ポイント上回った。

大問7の作文問題では、〈注意する点〉として『③ 第2・第3段落に「違う点」を1つずつ書くこと』が示されている。つまり各段落で1つずつ、あわせて2つの違う点を書くことが正答の条件であった。ところが、第2段落に「鉛筆は消しゴムで消せる」こと、第3段落に「ボールペンは消しゴムで消せない」ことというように、対にはなっている1つの特徴しか書かれていない生徒が2割ほどいた。記述問題を解くにあたっては、与えられた条件を正しく読み取らせることも必要である。

## ④読む能力

期待正答率73.0%に対して正答率は70.7%で、2.3ポイント下回った。

この観点の問題では、大問3(3)の本文の適切な箇所に一文を挿入する問題の正答率が45.9%と低く、期待正答率を14.1ポイント下回っている。

実際に文を挿入して読む際には、挿入する前の一文からでなく、段落の初めから読まないと、文脈に沿っているか否かがわかりにくい。日頃から様々な文章を読ませ、場面の展開を押さえる力を養っていきたい。

## ⑤言語についての知識・理解・技能

期待正答率79.1%に対して正答率は74.4%で、4.7ポイント下回った。

大問6の漢字の読み書きでは、読みは、すべての問題の正答率が9割前後と高かったが、書きは、問題によって結果が分かれた。具体的には、「ふくざつ」の正答率は52.7%と低く、特に「複」を「復」と書き間違えた生徒が21.0%いた。また、「たがやす」の無解答率は14.2%と高かった。

漢字は、実際の文章の中で学ぶことも大切であるが、それだけでは複雑なものや似た字があるものを誤って読んだり書いたりしてしまう恐れがある。間違いやすい漢字は、その成り立ちや意味に触れるなど、その漢字を用いる根拠も併せて指導したい。

## ■中学校第2学年

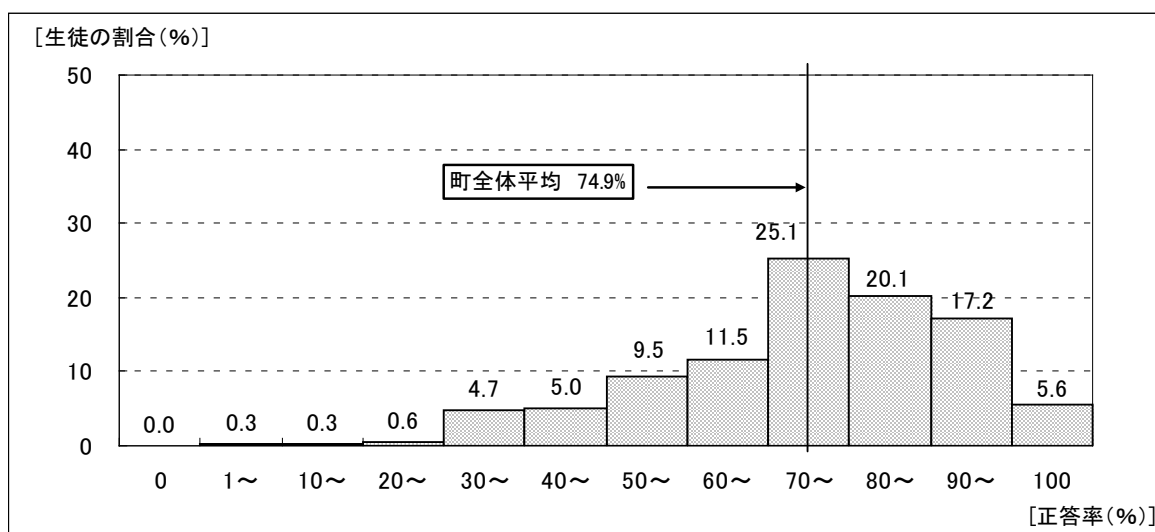
### 2 数学の正答率

期待正答率	町全体
65.0	74.9

○中2数学の町全体正答率は74.9%で、期待正答率を9.9ポイント上回っている。

#### 町内全体

正答率	0	1~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100
生徒の割合	0.0	0.3	0.3	0.6	4.7	5.0	9.5	11.5	25.1	20.1	17.2	5.6



○町全体では、正答率80%以上の生徒が42.9%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が10.9%存在する。

#### (1) 領域ごとの分析

	数と式	図形	数量関係
期待正答率(%)	66.4	62.1	63.3
町全体正答率(%)	<b>80.1</b>	<b>61.1</b>	<b>72.9</b>
差(%)	<b>13.7</b>	<b>Δ1.0</b>	<b>9.6</b>

##### ①数と式

期待正答率66.4%に対して正答率は80.1%で、13.7ポイント上回った。

ほぼすべての問題で期待正答率を5ポイント以上上回り、平均して8割を超える高い正答率となった。特に大問2・4・7のような文字式や1次方程式の計算問題の正答率は高かった。一方、期待正答率は上回ったものの低調だったのは、大問6の1次方程式の移項の間違いを指摘する問題や、大問8(2)の文字式が表す内容を答える問題で、正答率はいずれも58.6%であった。

大問6のような移項の問題では、符号の間違いに陥りやすい。1つ1つ移項の手順を確実に踏ませる指導が望まれる。

## ②図形

期待正答率62.1%に対して正答率は61.1%で、1.0ポイント下回った。

大問13(2)の点対称な図形の作図や、大問14(2)の三角柱の体積を求める問題では、正答率が期待正答率を10ポイント以上上回ったが、一方で大きく下回る問題もあった。大問13(1)の線対称な図形の対応する点を選ぶ問題では、正答率は45.9%と期待正答率を14.1ポイント下回った。この問題では、「点対称」の場合に対応する点を選んでしまう誤答が47.3%あり、正答を上回る結果となった。正六角形のような線対称とも点対称ともとれる正多角形については、軸を引いて対称となる点を考えさせる必要がある。

また、大問16の円錐の体積を求める問題では、正答率は34.3%とすべての問題の中で最も低く、およそ3人に1人しか正答できていない状況である。正答するには、 $\frac{1}{3} \times (\text{底面積}) \times (\text{高さ})$ の公式を覚えており、かつ母線の長さの情報に惑わされないことが必要であった。

数の領域は得意でも、図形の領域の問題は苦手だという生徒は多い。図形の問題を扱う際には、まず身の回りからその図形を見つけ、その性質に注目させることで関心を持たせたい。また、作図の方法を学ぶ際には、方法そのものは覚えていても、なぜその操作で作図が可能なのかを忘れてしまいがちである。作図方法の単純な暗記に陥らないよう、その根拠に基づいて理解させておきたい。

## ③数量関係

期待正答率63.3%に対して正答率は72.9%で、9.6ポイント上回った。

比例・反比例については、すべての問題の正答率が期待正答率に達している。その中で正答率が低かったものを挙げると、大問10(2)の反比例の式を選択する問題で、正答率は63.0%であった。誤答は選択肢③が多かったが、これは、変化の割合は比例と同じように求めてしまい、式の形は反比例のものを選んでしまったと考えられる。

こうした間違いを防ぐためには、書かれている式だけで考えようとせず、式を表やグラフに表し、どの数量が何を表しているのかを確かめるように指導する必要がある。

## (2) 観点ごとの分析

	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量、図形などについての知識・理解
期待正答率(%)	60.8	63.8	65.2	63.1
町全体正答率(%)	70.3	74.9	76.1	70.6
差(%)	9.5	11.1	10.9	7.5

### ①数学への関心・意欲・態度

期待正答率60.8%に対して正答率は70.3%で、9.5ポイント上回り、この観点では、すべての問題の正答率が期待正答率に達する結果となった。

大問13では、(2)の点対称な図形の作図の正答率が、期待正答率を14.9ポイント上回ったのに対して、(3)の角の二等分線に関する記述問題では、正答率は期待正答率とほぼ同じ値であった。

この問題は、角の二等分線の作図方法を理解した上で、それを言葉で説明するというやや高度な内容であった。この問題に限らず、図や式の上で表されていることを正確に言葉で表現する力を習得させ、数学への興味・関心につなげていきたい。

### ②数学的な見方や考え方

期待正答率63.8%に対して正答率は74.9%で、11.1ポイント上回った。

この観点でも、すべての問題の正答率が期待正答率に達した。その中で正答率が低かった問題を挙げると、大問8(2)の文字式が表す内容を答える問題の正答率が58.6%であった。文字式が表す内容を、切手の「代金」ではなく「枚数」ととらえてしまった生徒が32.2%いたが、試しにxに簡単な数字を代入し

てみれば、「枚数」というのは明らかにおかしいことに気づくはずである。文字式の問題を解く際には、現実の場面を踏まえて考えさせる必要がある。

### ③数学的な表現・処理

期待正答率65.2%に対して正答率は76.1%で、10.9ポイント上回った。

大問16の円錐の体積を求める問題など、正答率の低い問題もあったが、計算問題はほとんどが期待正答率を5ポイント以上上回った。しかし、正負の数や文字式など数についての抽象的な概念は、しくみがよくわからないまま形式的に問題を処理していくと、現時点では対応できても、いずれ難解な計算に出会ったときに手も足も出なくなってしまう恐れがある。解法を丸暗記させるのではなく、その解法のしくみをしっかりと理解させ、様々の場面で応用できるような力を育てていきたい。

### ④数量、図形などについての知識・理解

期待正答率63.1%に対して正答率は70.6%で、7.5ポイント上回った。

この観点の問題の正答率は、ほぼ期待正答率に達しているが、図形については、期待正答率を大きく下回ったものも見られる。大問14(1)のねじれの位置にある辺の数を求める問題では、正答率が期待正答率を7.8ポイント下回った。ねじれの位置にある辺を見つけるには、元の辺に平行でなく、しかも交わらない辺を見つけるか、あるいは、同一平面上にない辺を探す方法がある。

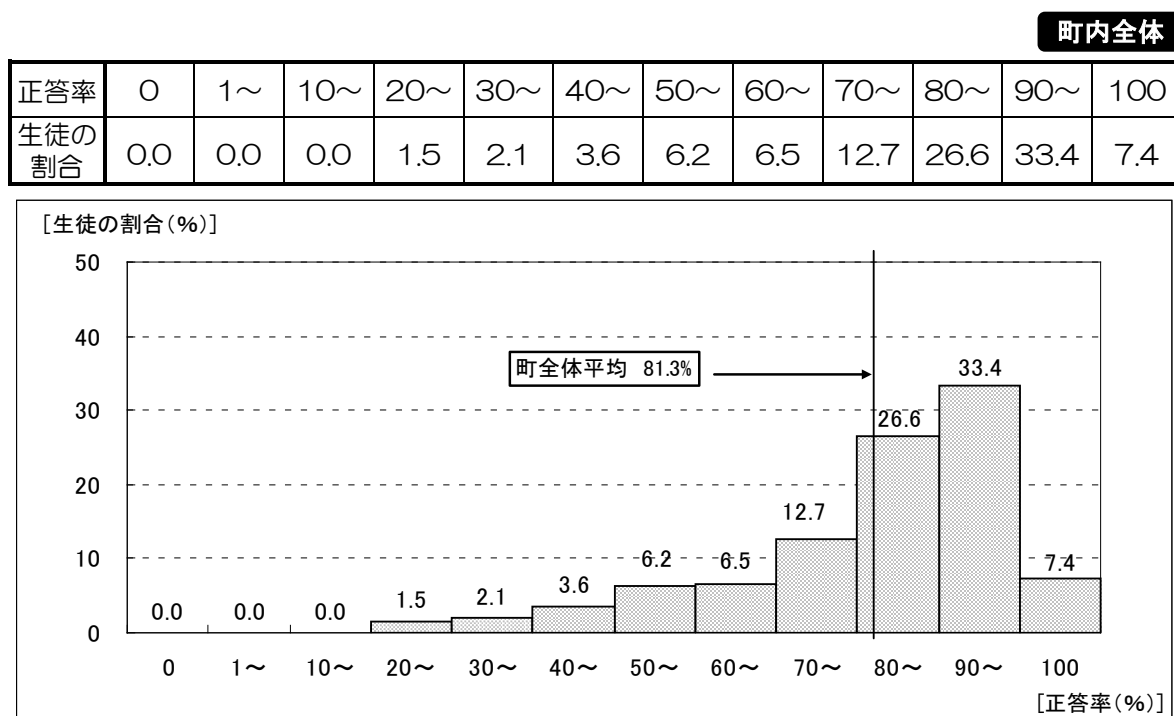
空間図形は苦手とする生徒が多いが、立体模型などを用いて位置関係を把握させ、生徒が頭の中で立体図形のイメージをつくれるように指導したい。

## ■中学校第2学年

### 3 英語の正答率

期待正答率	町全体
73.0	81.3

○中2英語の町全体正答率は81.3%で、期待正答率を8.3ポイント上回っている。



○町全体では、正答率80%以上の生徒が67.4%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が7.2%存在する。

#### (1) 領域ごとの分析

	聞くこと	読むこと	書くこと
期待正答率(%)	88.0	72.5	57.2
町全体正答率(%)	93.6	80.5	69.0
差(%)	5.6	8.0	11.8

##### ①聞くこと

期待正答率88.0%に対して正答率は93.6%で、5.6ポイント上回った。

大問1は対話から適切なイラストを選択する問題、大問2は対話を聞いてその要約を選択する問題である。対話自体が長いことと、聞いた内容をまとめる力を必要とするため、大問2の方が難易度は高いが、それぞれの大問の平均正答率は、大問1が92.1%、大問2が95.1%と大問2の方が高かった。

この領域の中では、大問1(1)(2)の正答率が比較的低めであった。(1)では、前置詞onの聞き取りができず、誤答である選択肢③を選んだ生徒が13.0%いた。疑問詞疑問文の応答では、疑問詞と答えの文の前置詞を意識して聞かせることが求められる。また、(2)の時刻の聞き取り問題では、thirtyをthirteen



と取り違える誤答が多く、14.5%の生徒がこれを選択した。数詞は、実際のコミュニケーションの中でも使用頻度が高いことや、キーワードとなることが多いことを考えると、日々の指導の中で繰り返しアクセントの位置を確認させる必要がある。

### ②読むこと

期待正答率72.5%に対して正答率は80.5%で、8.0ポイント上回った。

各大問を平均正答率で見ると、大問3が72.7%、大問4が83.3%、大問5が84.7%であった。

この中で最も平均正答率が低かった大問3では、(2)の正答率が期待正答率を7.9ポイント下回った。多かった誤答は、選択肢②の18.9%と選択肢④の24.6%である。前者は空所前後の内容把握が十分でないこと、後者は現在進行形の決まりを理解できていないことに起因している。

大問4では、(1)の正答率が期待正答率を1.9ポイント下回った。Do you ~? の疑問文の和訳問題だが、接続詞のandをorと取り違えた生徒が13.3%いた。接続詞については、その意味と用法を確認しておくことが望まれる。また、期待正答率をわずかに上回った(2)では、popularを一般動詞と考え、誤答であるdoやdoesを選択した生徒が合わせて18.0%いた。語の品詞を正しく理解することは、読むことだけでなく、「話すこと」の表現力、「書くこと」の正確性など他の領域にも大きく関わるので、確実に習得させたい。

### ③書くこと

期待正答率57.2%に対して正答率は69.0%で、11.8ポイント上回った。

各大問を平均正答率で見ると、大問6が76.9%、大問7が47.5%、大問8が72.8%で、大問7の平均正答率が他の大問と比べて低くなっていることがわかる。

語句整序の大問6では、(3)の〈SVO+副詞句〉で、他の問題に比べて正答率が低くなっている。こうした基本構文は頻繁に使用するので、目的語の位置や前置詞の意味・位置などは丁寧に指導しておく必要がある。

また、大問7は、2問とも期待正答率にほぼ達しているが、さらなる向上が望まれる。日頃の授業においても、積極的に書く活動を取り入れていきたい。

## (2) 観点ごとの分析

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
期待正答率(%)	76.9	59.1	79.3	69.6
町全体正答率(%)	<b>83.8</b>	<b>69.7</b>	<b>85.4</b>	<b>82.3</b>
差(%)	<b>6.9</b>	<b>10.6</b>	<b>6.1</b>	<b>12.7</b>

### ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度

期待正答率76.9%に対して正答率は83.8%で、6.9ポイント上回った。

この観点の問題を領域別に見ると、「聞くこと」の平均正答率が93.6%で、「読むこと」「書くこと」の平均正答率が67.4%であった。

今後は、生徒に聞かせる指導だけでなく、書く・話すといった「表現する」指導にも力を注ぎたい。語句レベルではなく文レベルで表現させることで、書くことでは文法上の、話すことでは発音上の細かい誤解や未理解を発見でき、以後の指導に反映させることができる。これはコミュニケーションに対する関心を増進させるだけでなく、知識・理解の強化にもつながる。ただし、話すことに関しては、発言することに躊躇してしまう生徒が少なくないので、ALTとのチームティーチングなどを活用し、生徒が発言しやすい雰囲気をつくることが大切である。

### ②表現の能力

期待正答率59.1%に対して正答率は69.7%で、10.6ポイント上回った。

大問7の条件英作文は小問2問で構成されているが、無解答率が平均13.0%と高かった。この無解答率の高さが、解答時間の不足に起因するものでないことは、大問8の自由英作文の無解答率が6.5%であることからわかる。大問8では、第1文に自分の名前を書くことはほぼ答えられるため、生徒は難しく感じられた大問7を飛ばして、大問8を先に答えたものと考えられる。

条件英作文は、与えられた指示が他の問題ほど明確ではないため、その指示を咀嚼し解答に結びつける力を必要とする。日頃の授業においても、シチュエーションに合わせて、臨機応変に適切な表現を選択・表現する訓練を、意識して行っていきたい。

### ③理解の能力

期待正答率79.3%に対して正答率は85.4%で、6.1ポイント上回った。

この観点の小問25問中、期待正答率に達していないのは1問だけであった。

正答率の低かった問題を取り上げると、領域ごとの分析でもふれた大問3(2)の52.1%に次いで、大問3(5)の英問英答による英文の内容把握問題の正答率が、57.0%と低かった。示されている問いの文が本文中にある表現に近いものなので、代名詞と固有名詞の関係がわかれば、それほど難しい問題ではないはずである。にも関わらず、他の問題に比べて正答率が低いのは、英文の内容を十分に把握できていないためと考えられる。読みの指導にあたっては、教師から生徒に質問を与え、それを踏まえたポイントを絞った読みをさせることにより、文の要旨を把握させることが大切である。

### ④言語や文化についての知識・理解

期待正答率69.6%に対して正答率は82.3%で、12.7ポイント上回った。

この観点の小問12問すべての正答率が、期待正答率に達している。

ただし、大問6の語句整序問題では、正答率にばらつきが見られた。この時期の生徒たちは、さまざまな新しい文法事項を学習するので、学習時以降に教科書本文中で見られることの少ない文法事項は、知識として定着しにくい。既習内容の記憶が薄れていかにように、生徒に与える文、また生徒自身に作らせる文が、既習の文法事項を盛り込んだ多様なものになるように配慮する必要がある。